VOL.153.　2019. 4月号

「想うこと」

４月は新たな気持になる月です。フレッシュマンが街に溢れ、僕の気持ちも当時を思い出し再起動させてもらえます！そんな想いの一場面。過去に感謝。たくさんの人達が成長させてくれました。

当時、開設当初のいきいきらいふのお客様との契約の時はスーツでした。
やはり契約という大事な場面では、社会常識としてちゃんとしようとの想いでスーツでの契約時の服装でした。
ぼくが当時担当した古賀さん。

初の訪問時の契約。
スーツ姿の僕を見て、一蹴。サラ金の取り立ての覚えはない！
と。。。
生活保護で独居の古賀さんの最初のコンタクトでした。
ケアマネジャーからは、介護保険を使うことも他人が自宅に来ることも拒否している方と。

古賀さんは、末期の余命6ヶ月のおじいちゃん。
通院介助での依頼でした。
最初の契約時にひどく警戒して玄関に入れてくれない状態で、
かえれかえれ！と。
僕も負けじと、きたくてきてるんじゃねーと。一喝。

そんな、まさかの回答に興味を持たれ、社長がわざわざヘルパーとして来たのかと、またまた、興味津々。

基本、和室での契約行為の際は、正座。

せんべい布団の上で、古賀さんと一時間のケアプランにそって、
契約の読みあわせと締結をして、スタート。

通院介助での出来事から。

僕はその当時、左足の魚の目が悪化して、まともに歩けず。
古賀さんは、体全部が痛いのでモルヒネで緩和してましたが、速度微速。

ちょうど、僕と速度があっていて、通院介助も意思疎通できてました。

古賀さんは極度のチェーンスモーカー。
ピース缶を抱えながら、タバコをフィルターギリギリまで吸っている方です。
しかも、ポイ捨ての常習犯。
ある日、通院介助の道中。ポイ捨てをする古賀さんに注意しました。
歩行者が見たら怒られますよと、
案の定、若いスーツのお兄さんに怒鳴られ、タバコを拾いに行く古賀さん。拾いに行ってこいと言われましたが、大人なんだから自分でと。

古賀さんは、ある有名ホテルの総料理長をしていた方です。中華の達人。
1Kの和式トイレの風呂なしの部屋にもかかわらず、
中華鍋と火力最大のむき出しの一口コンロ。

それで、通院介助の際に看護師さんたちに、生活保護費からエビチリを振る舞うためにいつもできたてを作っていました。
案外、モテて病院では待遇はよかった。。

その古賀さんは、せんべい布団の裏に生活保護費をしまっているのか、
一か月分を布団を干したときに外に放ってしまったことも。。。

古賀さんの趣味は将棋。
余命半年の付き合い。

僕は、将棋をやったことがない。
古賀さんの家には将棋の盤も駒もない。

さっそく、会社に帰ってプリンターで出力。
厚紙で盤をつくって、ハサミで駒をちょきちょき。
将棋は達人並み。ぜったいに勝てない中、

僕はいつも帰りに、僕が勝つまで死なないでねと。

古賀さんとの通院介助や家事援助での部屋掃除の合間、
いろんな話をした。

当時は、給与が出れば料理見習いをつれて、その日に散財。
いつも貯金はなかったこと。

ホープ缶の中に、昔付き合っていた歴代の彼女たちの写真と自慢話。
古賀さんは、ぼくが結婚し、子供の顔をみるまでは死なないと言ってくれた。

通院介助で、病院の先生に怒鳴られたことも。
処方されている薬を飲まないで捨ててしまう古賀さんに、先生は飲まないと死んじゃうよ！！と、
家族がもしその場にいたならそんな信じられない対応はしないと僕は思う。

やはり独居の高齢者への病院の医師の対応や、飲んでも喉詰まらせる異常な薬の処方。
意味もわからず飲まされている高齢者。。。

古賀さんは、モルヒネもゴミ箱に捨てていたから、重ねて怒鳴られていた。。。
そんな古賀さんも、僕と出会い。
5年以上余命を伸ばしてくれた。

僕は自立介護とは、QOLとは、を考えるとき

いつも古賀さんを想い返す。

命に寄り添い、最後の走馬灯。
古賀さんは3分で終わる走馬灯を。
僕と出会い3時間もかかったんだと。

facebook
フェイスブック始めました。
お友達申請お待ちしてます。

社会福祉法人　千歳会
理事長　左　敬真